

J A 西 印 旂 営 農 情 報

～パイプハウス雪害対策～

ハウスの耐雪強度を上回る積雪があった場合、雪の重みに耐えられず、屋根が陥没するなどの被害が主にみられます。特にパイプハウス及び、使用年数の長い鉄骨ハウスの降雪、積雪の対策として以下の点に留意し、豪雪時の被害を最小限にできるようにしましょう。



ポイント

- 天気予報や気象庁等の行政情報を収集し、予報に応じて事前に対策する。
- やむを得ず積雪後に対処する場合は、必ず複数人で作業し、積雪直下での作業はしないこと。
- 破損が著しく、解体が必要な場合は、部材を外した時にパイプの跳ね返り等でケガをするので、できるだけ業者や経験者の応援を要請すること。

① パイプハウスの補強

パイプハウスは必要に応じ、応急補強用の支柱や筋かい等を取り付けて補強します。支柱を使用する場合は、棟部主管（主骨材）を支える位置に、できれば3～4mおきに取り付けると効果的です。



② ネット・外部遮光等の撤去

屋根の被覆資材の表面に雪の滑落を妨げるような突出物がないかを事前に確認します。特に、防風・防鳥ネットや外部遮光等は滑落の妨げになるので、降雪前には必ず撤去してください。

③ 外張フィルムのたるみ・破れ補修

外張りフィルムのたるみや破れは、雪の滑落を阻害するので降雪前に補修してください。

④ 暖房用燃油残量、配管・電線の破損確認及び補修

暖房機を利用している場合は燃油残量を確認し、できる限り満タンにしておいてください。

⑤ 暖房機での屋根雪の融雪対策

暖房機が設置されている場合は、内部被覆（2重カーテン）を開放したうえで可能な範囲で室温を高めることで、屋根雪の滑落を図ります。カーテンの作動に問題がないか確認し、異常が確認された場合は速やかに補修してください。